

議事録

会議名	第1回 定例役員会、定時総会、	記録	谷口
日時	平成26年4月22日(火)	確認・発行者	

出席者

本部	吉田副会長					
支部長	駒木根洋一					
副支部長	安達政市	谷口博司	堤正	加藤覚	四ノ宮健司	
役員	武内正光	五百蔵健行	鈴木民夫	川岸義孝	山田雅典	前村悟
	中野信之	富田克己	工藤喜則	石川全宏	佐藤吉見	半崎敏裕
	美濃輝之	山本利彦	栢田彰			
監査	高橋浩子					
顧問	東重孝					

◎ 定例役員会

配布資料

資 料	
1	平成26年度定時総会資料

確認事項

報告者	資料 No	主な議題
安達	1	「事業計画及び予算」が報告事項となった件を説明。 総会スケジュール、議長選出の発言者、意見交換会、総会資料等を説明。
支部長		<ul style="list-style-type: none"> ・協会の基本方針の説明 ・会員増強のアイデア募集
山田雅典		ペリカン便について <ul style="list-style-type: none"> ・H24年はゼネコン中心、H25年は設計事務所中心にPRを行っているが、協会に対してどのような要望があったのか。
支部長		<ul style="list-style-type: none"> ・設計事務所、ゼネコンにおいて積算担当者が減少し、積算事務所へのアウトソーシングが増加している。
山田雅典		<ul style="list-style-type: none"> ・設計事務所に対して積算教育と資格者の重要性をPRするべき。
支部長		<ul style="list-style-type: none"> ・積算士補を含めて、協会として取り組みたい。
佐藤吉見		<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度会員144人とあるが、全道の積算士取得者の人数は？
武内正光		<ul style="list-style-type: none"> ・H25/3/31時点で、積算士が546人、コスト管理士が33人。
佐藤吉見		<ul style="list-style-type: none"> ・会員となって年会費を支払うほうが更新料を支払うよりもメリットがあるということ PR し、非会員の資格者を入会させるようにしたい。
支部長		<ul style="list-style-type: none"> ・積算協会の26年度事業計画は <ol style="list-style-type: none"> 1. 会員の増強 2. 建築積算に関する人材育成及び認定事業 3. 建築積算に関する調査研究及び情報発信事業 以上であり、計画を確実に実行したい。

佐藤吉見		・非会員に対して、「必要性とメリット」を本部主導で PR するのもひとつの手段である。
支部長		・会員増強は支部単位での活動を求められている。
山田雅典		・会員増強の数値目標を掲げるべきであり、道内資格者 564 人の半分程度を目指すべきである。
支部長		・会員増強は永遠の課題であり、検討する。
佐藤吉見		・会員のメリットを明確にしてもらえると、勧誘しやすい。

◎ 定時総会

挨拶

支部長		公益社団法人となり 2 年が経過した。平成 25 年度の実績を踏まえて本年度の審議をしていただきたい。本年度の事業計画は「会員増強、人材育成及び認定事業、調査研究及び情報発信事業」の 3 本柱に沿った活動内容を推進する年初の計画案である。本協会の公益性を念頭に置き、活動を進めていく。
吉田副会長		積算協会の活動基盤はあくまでも支部単位であり、本部は手助けする立場である。会員のメリットを問われているが、建築の資格者はそれぞれの団体を支えている。立場を変え、資格を取得したことでのどのようなメリットを享受したのかを考えてみることも必要ではなかろうか。

総会議事

開会		加藤副支部長
総会成立		鈴木役員：出席者 31 名、委任状 80 名、計 111 名（154 名の過半数以上）
議長選出		武内正光氏を司会者が指名
1 号議案		H25 年度事業報告：堤副支部長
2 号議案		H25 年度収支決算報告：安達副支部長
監査報告		高橋監査
報告事項		H26 年度事業計画：堤副支部長
		H26 年度収支予算：安達副支部長
閉会		加藤副支部長

意見交換会

司会		四ノ宮副支部長
講演	17:30 ～ 18:15	公認会計士 旗本道男 「北海道における企業経営の計画と実施」 －JR 北海道と北海道電力の決算書から考える－
支部長挨拶		公益社団法人となり 2 年が経過した。積算協会は今年度の事業計画の柱として「会員増強、人材育成及び認定事業、調査研究及び情報発信事業」の 3 本を掲げた。東日本大震災からの復興工事や公共工事の増大等による資材や人件費の高騰など、コスト管理が注目されている。当協会としての立場を考え、期待に応じていく。

協会本部 吉田副会長		積算協会を取り巻く環境は厳しいものがあるが、建築も積算も業務は確実に増えている。しかしながら人材不足のため、要望に応えられないという現状でもある。積算業務に対する認識も高まってきており、発注者である官公庁もバックアップをしてくれているので支部活動を通して貢献して欲しい。
北海道建設 部建築局長 平向邦夫		積算協会の総会が無事終了したことにお祝いを申し上げる。常日頃、積算業務の技術向上に取り組んでおり敬意を表する。北海道は「時の経過とともに価値を増す公共建築の整備」を目指している。道の発注工事量は平成24年は80億円、25年は190億円、今年度は270億円とアベノミクス効果もあり増加している。北海道経済も回復してきているが、技術者不足、資材と人件費の高騰などで不落の物件も出ている。積算協会には工期の設定等を含めた技術面での協力をお願いする。
乾杯		北海道建築士会 高野壽世会長 本日、J5（建築5団体）のプレス発表があった。
歓談		
閉宴	19:50	堤副支部長